

## 《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

\* 科目 No.

2929

## 科目概要記入欄

1. 開設大学	島根県立大学		開催 方法	□対面 ( ) -		
				■オンライン (同時)		
				□対面 ( ) ・録画		
2. 科目名	正式科目名	比較文化論			クラス名	2・3・4
	副題				配当年次	
	旧科目名				受入学年	
	学問分野	番号	11	名称	文化・文学	
	サテライトで開講される科目の科目群			A群	B群	
3. 担当教員名	渡部 望					
4. 単位数	2単位		5. 開講学期	秋学期		
6. 開講期間 曜日・時間	2021年 10月 1日(金) ~ 2022年 1月 28日(金) 金曜日 9:00 ~ 10:30 ※11/23(火)授業日					
個別開講日	1回目 10/1	2回目 10/15	3回目 10/22	4回目 10/29	5回目 11/5	6回目 11/12
	7回目 11/19	8回目 11/23	9回目 11/26	10回目 12/3	11回目 12/10	12回目 12/17
	13回目 12/24	14回目 1/21	15回目 1/28	16回目 /	試験日	2/4
7. 基礎知識の有無	2. 「基礎知識を必要としない科目」					
8. 募集人数 (総授業定員)	5人 ( )人		9. 定員超過時の 選考方法	書類選考		

10. 科目内容・ 授業計画	<p>「比較文化」とは、異なった風俗習慣を持つ「他者」を文化という枠組みで理解しようとし、また異文化との比較において「われわれ自身」を理解しようとするものです。「比較文化論」という学問が成立したのは比較的近年のことですが、古来、旅行者や探検家たちは「比較文化」を行ってきました。現在では海外旅行が容易になり、また身近に暮らす外国人が増えてきて、「比較文化」的言説はわれわれに親しいものとなっています。しかしそうした文化比較はどこまで正しく、相互理解に有益なのでしょうか。皮相な比較が誤解と悲劇を招いてはいないでしょうか。この講義ではそうした問題意識を射程におきながら、いくつかの代表的な「比較文化論」を検討していきます。</p> <p>授業は Teams を利用した同時双方向でおこないます。講義主体ではありますが、皆さんとの対話を重視します。皆さんには、課題に対する解答を発表する、テキストを音読する、質問をするといった授業参加をしていただき、それを「授業参加点」として評価します。皆さんには Teams の双方向機能を活用して積極的な授業参加を求めます。</p> <p>到達目標 比較文化論の歴史と基本的概念を自分の言葉で説明できるようになる。 比較文化論のもつ面白さと課題を意識して文化を考えることができる。</p> <p>第1回 イン트로ダクション：比較文化論とはどのような学問か 第2回 西洋人の見た日本人像 第3回 ケンペルの日本観察 第4回 『菊と刀』の日本観1 第5回 『菊と刀』の日本観2 第6回 「文化」概念の歴史 第7回 「文化」と認知 第8回 『オリエンタリズム』の比較文化批判1 第9回 『オリエンタリズム』の比較文化批判2 第10回 『われわれと他者』の比較文化論1 第11回 『われわれと他者』の比較文化論2 第12回 『逝きし世の面影』の文化論1 第13回 『逝きし世の面影』の文化論2 第14回 『文明の衝突』の文化概念 第15回 レポートの書き方</p> <p>授業では以下の文献を参照します。要点はプリントして配布します。なおテキストはメディアセンターに揃えてありますので、ぜひ参考にしてください。 ケンペル『日本誌』、ベネディクト『菊と刀』、高野陽太郎『「集団主義」という錯覚』、 サイード『オリエンタリズム』、トドロフ『われわれと他者』、モンテーニュ『エッセー』、渡辺京二『逝きし世の面影』、ハンチントン『文明の衝突』</p>		
11. 試験・評価方法	<p>「出席点」はありませんが、出席日数が10回に満たない受講生は評価対象外とします。出席は「出席シート」提出によって確認します。 成績評価は「授業参加点」（課題に対する発表、テキストの音読、質問）と、学期末レポートの評価点を合算しておこないます。</p>		
12. 別途負担費用			
13. その他特記事項	授業は Teams による同時双方向にて実施します。		
14. サテライト科目の 社会人受講について	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料提示）へ変更になる場合があります。